

取組方向案 項目

1. 「見える化」実証事業の実施と結果の検証
2. 「見える化」本格実施に向けたラベル表示（消費者への見える化）
ラベルデザイン、運用方法
3. 生産者の取組促進に向けた削減効果例示（生産者への見える化）
4. Scope3算定への活用方法の提示（企業への見える化）

取組の方向性

生産者への見える化

下記を進める方針としてよいか。

- 生産者の効果的な環境配慮農法に関する理解を促進するため、代表的な脱炭素アクションの削減効果例を「脱炭素の見える化ガイド」にて紹介し、算定シートの活用と脱炭素アクションの取組を促進する。

コメ(〇〇県、10a当たりの場合) ※削減率は暫定的なもの

・中干1週間延長

→15~19%程度 削減



・肥料、農薬使用量半減

→4~10%程度 削減



・バイオ炭(1年当たり

140kg/10a、投入、竹炭の場合)

→7~9%程度 削減

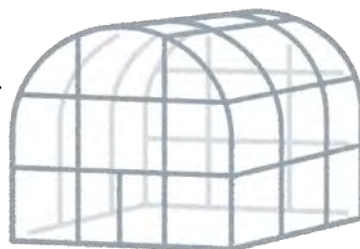


トマト・キュウリ(施設栽培) ※削減率は暫定的なもの

・燃料の3分の1を木質ペレット等に置き換え

→15~20%程度 削減

(施設栽培の場合、重油、軽油、ガソリン等の燃料は、生産により排出される温室効果ガスの6割~7割を占めている)



・肥料、農薬使用量半減

→2~8%程度 削減



取組方向案 項目

1. 「見える化」実証事業の実施と結果の検証
2. 「見える化」本格実施に向けたラベル表示（消費者への見える化）
ラベルデザイン、運用方法
3. 生産者の取組促進に向けた削減効果例示（生産者への見える化）
4. Scope3算定への活用方法の提示（企業への見える化）

Scope 3 における各カテゴリの排出量の算定方法と 1 次データ 利活用のメリット

- 農産物を原材料として調達する企業にとって、GHG削減に取り組む生産者が生産段階でのGHG排出量一次データを報告すると、算定企業のScope3に反映できる。
- 企業にとって、削減に取り組む生産者から原料を調達するインセンティブが高まる可能性。

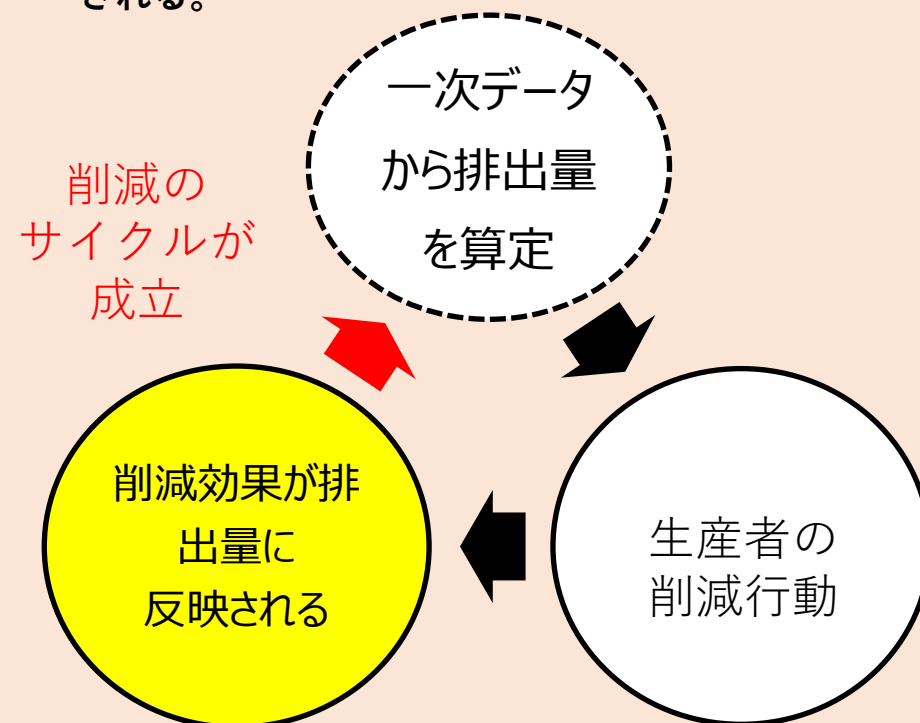
■ 各カテゴリの排出量の算定方法には以下の2種（a. と b.）がある。

- a. 関係する取引先から排出量の提供を受ける方法（一次データを利用する方法）
- 取引先から「@@年度の貴社向け生産に係る総排出量は**トンでした」のような報告を受ける。

- b. 「排出量 = 活動量 × 排出原単位」という算定式を用いる方法
- 活動量を自社で収集
 - 排出原単位は、外部データベースや取引先から得る（= 削減努力が反映できない）

● 一次データを利用した場合

- サプライヤーからの一次データを利用した場合、サプライヤーの削減が直接算定企業のScope3に反映される。



参考：環境省「グリーンバリューチェーンプラットフォーム」

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_all_20220317.pdf

(参考) 個別農産物のGHG簡易算定と事業者単位のGHG算定の関係

- 個々の農産物の簡易算定の積み上げ（事業者全体のGHG排出量）で、サプライチェーン全体での環境負荷の見える化に活用可能

環境負荷を知る

「どこをどうすれば環境負荷を減らせるか」が明確に可視化できる



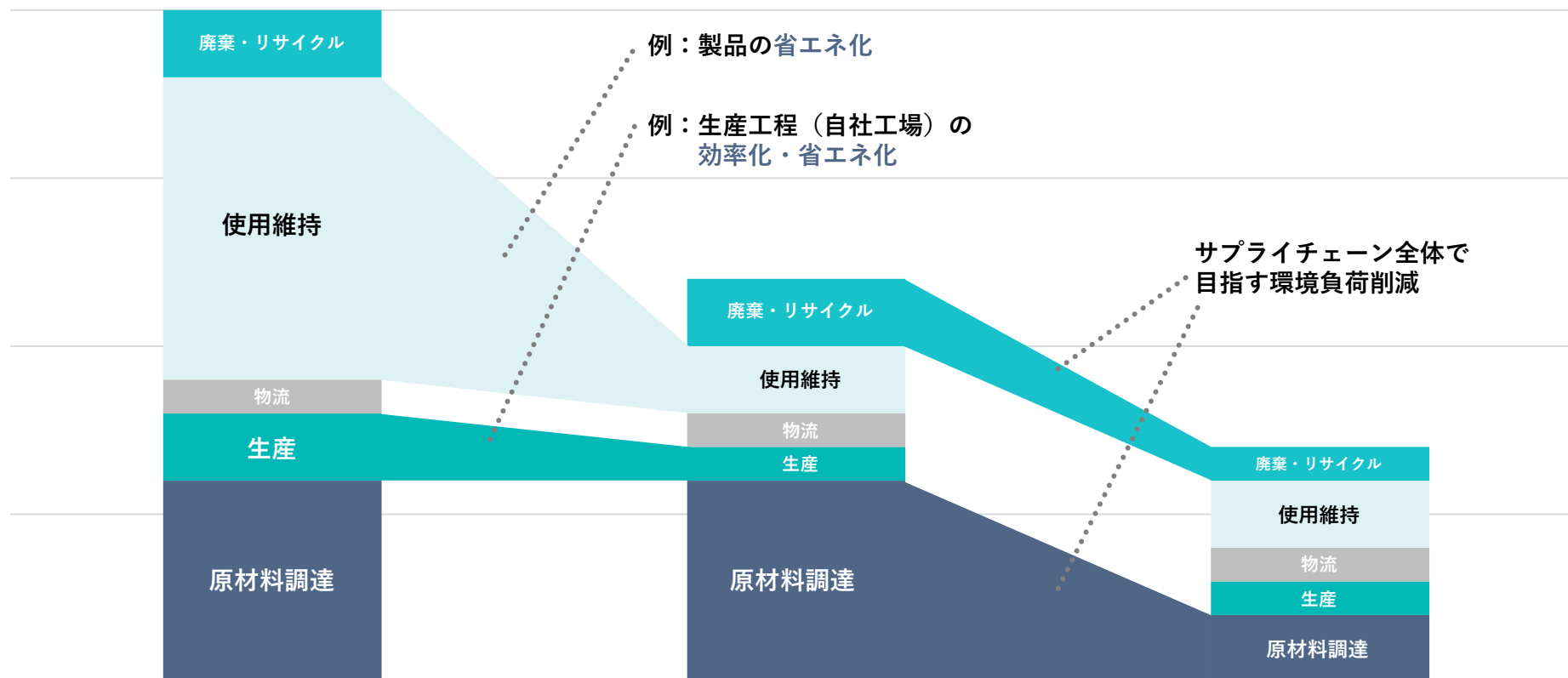
削減に取り組む

削減努力の結果を客観的に評価し、対外的にも自社努力を示すことができる



更なる削減努力

サプライチェーン全体を巻き込んだライフサイクルでの環境負荷低減



出所 SuMPO

(参考) 事業活動全体 (= サプライチェーン) でのGHG 排出量の算定

- 事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指す。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと
- サプライチェーン排出量 = **Scope1排出量** + **Scope2排出量** + **Scope3排出量**
- GHGプロトコルのScope3基準では、Scope3を**15のカテゴリに分類**



Scope1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3 : Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

参考：環境省「グリーンバリューチェーンプラットフォーム」

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_all_20220317.pdf

取組の方向性

企業への見える化：Scope3算定への活用

簡易算定ツールにより算出した農産物のGHG排出量について、川下企業がScope3算定へ活用してもらい、環境配慮した農産物の需要の促進が図られるよう、ガイドに反映する。

	検討の進め方	留意点
1	サプライヤーが川下に当たる企業へ開示する情報についての注意点を整理する。	- 数値情報の他、必要最低限のサプライヤーの開示情報の項目を整理 - Scope3算定にはGHG排出の絶対量が適用される一方、削減効果もコミュニケーションに活用されるための要件を整理
2	川下に当たる企業が、サプライヤーから農産物のGHG排出量の提供を受けScope3算定に使用する際の注意点を整理する。	一般データとサプライヤーデータの性格の違いを明示する。
3	サプライチェーンマネジメントを通じたGHG排出量削減を進める試行例を調査する。	サプライヤーと川下企業との対話を通じて、サプライヤーにおける農産物のGHG排出量削減が、川下企業のScope3削減に貢献することを明示する。

見える化ガイドの更新に係る論点

再掲

第一回検討会における各項目の論点は、以下の通り

1. 実証事業の実施と結果の検証

論点② 第2回検討会においてラベル表示に係る課題を抽出、第3回において簡易算定ツールと見える化ガイドの改定に反映させる進め方でよいか

2. 「見える化」本格実施に向けたラベル表示（消費者への見える化）

ラベルデザイン、運用方法

論点③ 表示：等級表示とする方向で検討してはどうか

名称：環境にプラスな行為を表現した名称か、中立的な名称か。

要素：その他、ラベルに追加すべき要素はあるか（数値の記載等）

運用：ラベルの運用は、自己宣言とする方向で検討してはどうか

また、その際の信頼性の担保手法検討の進め方は妥当か

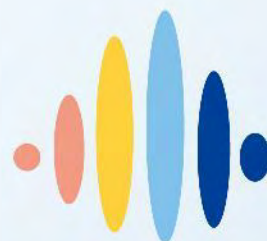
3. 生産者の取組促進に向けた削減効果例示（生産者への見える化）

論点④ 代表的な脱炭素アクションの削減効果例を「脱炭素の見える化ガイド」にて紹介してはどうか

4. Scope3算定への活用方法の提示（企業への見える化）

論点⑤ 算定ツールで算定した一次データを企業がSCOPE3データとして利用できるよう見える化ガイドに反映してはどうか。

さんぽ わざ
心豊かな未来をSuMPOの業で創ります



SuMPO

Sustainable Management Promotion Organization

一般社団法人サステナブル経営推進機構

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1

三井住友銀行神田駅前ビル

ホームページ <https://sumpo.or.jp>